

市民意識調査の結果

合併後の市政

「特に変わりにない」が半数 「住みやすくも3分の1」

総合計画に基づくまちづくりが始まって3年目になり、この間、市民の皆さんが現状に対してどのように感じ、どのように評価をしているのかを聞き、今後の市政運営や後期計画策定に当たっての基礎資料とするため、6月に市民意識調査（アンケート）を実施しました。

この市民意識調査は、前回平成17年に実施しており、個別施策55項目については、各施策に対する「満足度」と「重要度」が、この3年間でどのように変化したかを知るため、同じ内容で行いました。

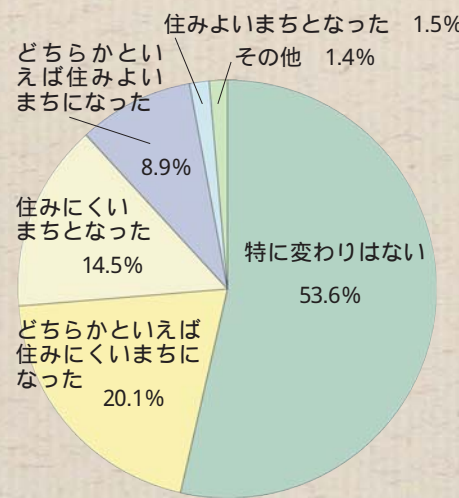
今、市民の皆さんが、市をどのように考えているのか、意識傾向のデータの一部を紹介します。調査結果の詳細については、市役所企画課のほか市ウェブサイトで「閲覧いただけます。http://www.city.ena.lg.jp/

問い合わせ 企画課（内線330）

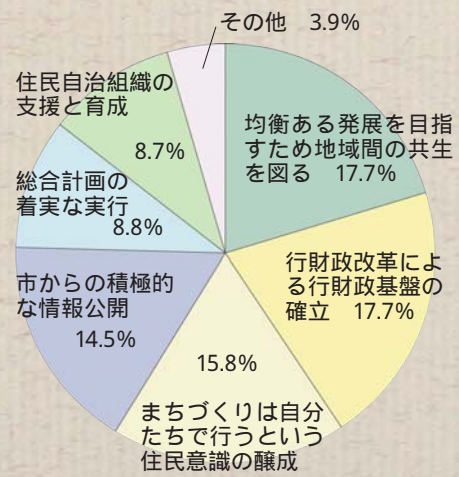
恵那市って
どう思う？

調査の概要

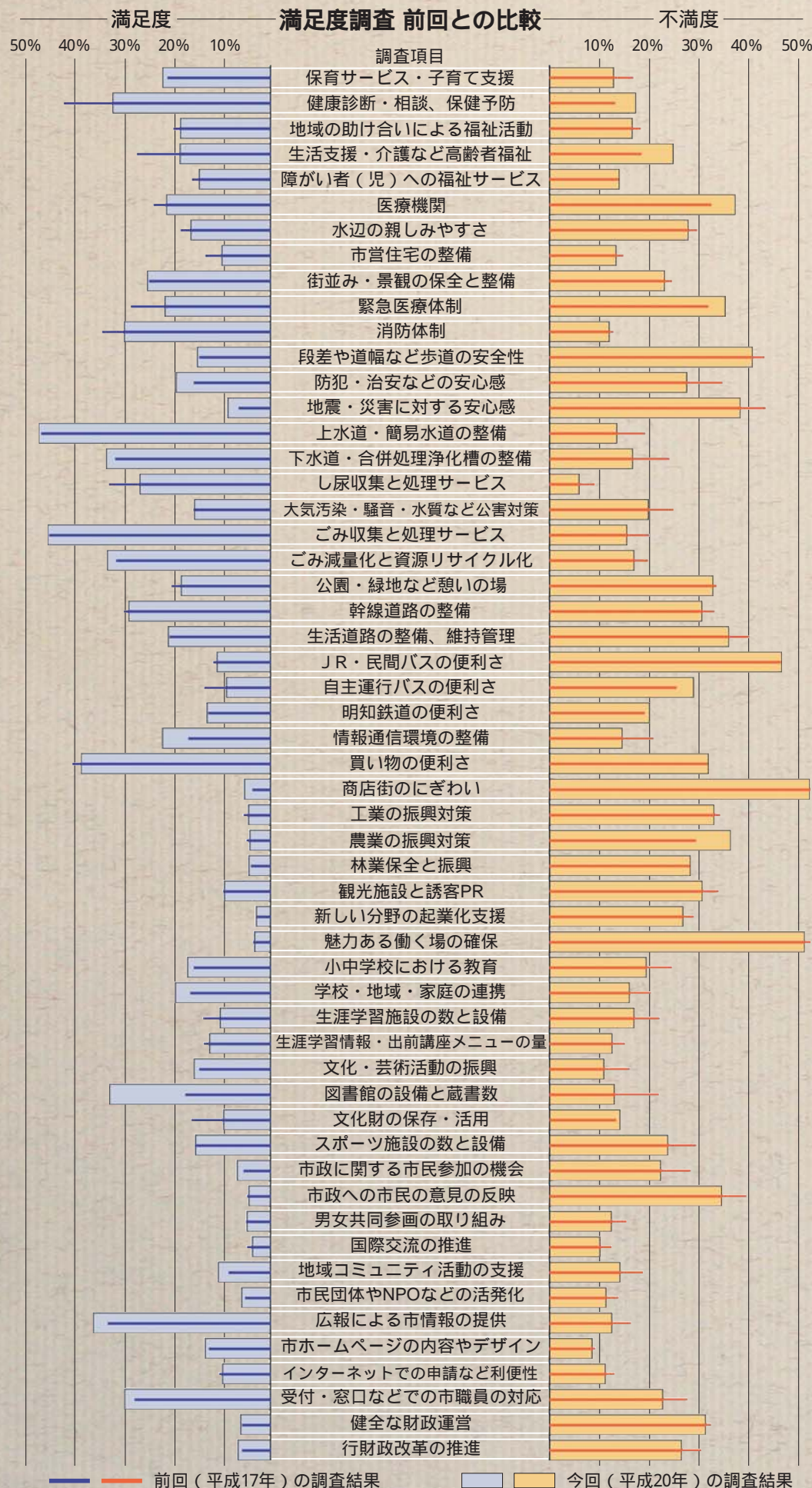
調査対象：20歳以上の市民2,500人
調査方法：郵送配布、郵送回収
抽出方法：無作為抽出法
調査時期：平成20年6月
回収結果：1,381人（回収率55.2%）
前回平成17年度回収結果1,688人（回収率67.5%）



合併後住みよくなりましたかと思いませんか
合併後の市政について調査をしたところ、「特に変わりにない」53.6%と最も多く、ついで、「どちらかといえば住みにくいまちとなった」と「住みにくいまちとなった」を合わせた、住みにくくなったと感じている方が34.6%を占めています。一方、住みやすくなったと感じている方は、10.4%という結果となりました。



より良い市にするために必要なことは
今後、恵那市をより良い市にするために何が必要かを尋ねたところ、「市全体の均衡ある発展を目指すため地域間の共生を図る」と「行財政改革による行財政基盤の確立」が17.7%と高く、「自分たちのまちづくりは自分たちで行うという住民意識の醸成」15.8%、「市からの積極的な情報公開」14.5%という結果となりました。



55項目の個別施策「商店街のにぎわい」「働く場の確保」「高い不満」

健康・福祉、生活環境、都市・交流基盤、産業振興、教育・文化、住民参画の分野について、55の個別施策について、満足度、重要度を伺いました。

策について、満足度、重要度を伺いました。

「満足度」「やや満足」を合わせた満足度の高い施策は、「上下水道・簡易水道の整備」46.8%（前回46%）「ごみ収集と処理サービス」45%（前

回44.4%）、「買い物の便利さ」38.2%（前回39.9%）などとなっています。一方、「不満」「やや不満」を合わせた不満足度の高い項目は、「商店街のにぎわい」52.5%（前回54.7%）、「魅力ある働く場の確保」51.7%（前回54.7%）

5%（前回52.8%）、「JR・民間バスの便利さ」46.9%（46.6%）などとなっています。この上位3項目は前回と同じ順位となっています。